



① 緑地公園周辺の冬の朝。落ち葉の絨毯が一面に広がります。ふかふかの落ち葉を踏み体験は三芳町の魅力のひとつ。② グリーンサポート隊の皆さん。定年退職後のセカンドライフとして活動する人と若い世代が協力しながら「サト」を守っています。③ 落ち葉掃き体験。集めた落ち葉をまとめて堆肥に。落ち葉は分解され発酵中は温か。カブトムシの幼虫の寝床に。④ 整備された後の緑地公園。⑤ 除去した竹の葉やごみ。写真の谷禎三さんは隊発足当時から活動しています。⑥ 落ち葉の堆肥にいるカブトムシの幼虫を探す子どもたち。自然と触れ合う貴重な体験に。



自分たちができることを

三芳町には自然と緑が身近な所にあり、都会の人たちと比べると恵まれた環境の下で暮らしていることを多くの人たちに気づいてほしいです。そのうえで、まずは私たちができることから始めることが大切だと思います。道に落ちているゴミを拾うことなども立派な緑保全の活動。一人ひとりが意識を高め、自発的な行動をすることが必要です。



グリーンサポート隊代表
原 芳彦さん

町の自然と緑にふれあい 未来へと伝えていくことが使命


私 たちが普段、何気なく利用している緑地公園とその周辺。以前は整備されず草木が生え、ゴミが散乱していました。しかし今は誰でも気軽に安心して足を運べ自然と緑を体感でき、さらに10月までバーベキューが楽しめる三芳町のおすすめスポットになっています。その裏には三芳町の緑を守るために活動している「みよしグリーンサポート隊」の存在があります。「循環型農法を守るには葉が

落ちる前に、この土地を整備する必要があります」と話すのはサポート隊の谷禎三さん。「堆肥に向かない竹の葉や雑草、朽木の丸太などを除去し、ゴミを拾います。何故かと言うと落ち葉掃きをするとき、不純物が混じらないように、事前に準備をしなければいけないからなんです」と続けました。みよしグリーンサポート隊は現在約70人で毎月第3日曜日に活動中。メンバーの多くは、他の市町村区から三芳町に移り住んだ人たち。そのため客観的に

三芳町の「ヤマ」の貴重さを感じることはできると言います。「小さな頃から自然の中で安心して遊べる環境を私たちが整えていくことが結果、伝統農法を守ることにもなります。三芳町の自然と緑は『宝物』です。ただ見ているのではなく、その宝物をどのように活用していくのかを考えて活動していきたいです」と話す代表の原芳彦さん。町を担う子どもたちに私たちが今できることは何か。最後に伺いました。「三芳町で暮らす皆さんが町を探索し、緑地公園などを訪れ、自然の恵みや歴史を体感し、それを子どもたちに伝えていくことが私たちができることだと思います」。

三芳町の「ヤマ」を一緒に体感しませんか。

2016年1月17日(日)に緑地公園周辺で落ち葉掃きを実施します。集めた落ち葉は味良しの味力「みよし野菜」の栄養となる堆肥として活用。サポート隊では隊員を募集中です。一緒に緑を守りませんか。



問い合わせ / 三芳町役場 ☎ 049-258-0019 内線 218 環境課まで

10月18日に実施した緑地公園と周辺の整備。この写真に写っている上村七郎さんはなんと80歳。「ふるさと三芳町をずっと守り続けていきたい。ぜひ若い人たちにも体験し、受け継いでほしい」と言います。



みよしグリーンサポート隊

自然と人の繋がりを守りたい。

三芳町の自然と緑を守り続けたい。その想いでボランティアで活動しているみよしグリーンサポート隊。

私たちが楽しく緑地公園で遊んだり、安心して昆虫採取などできるのはこのグループの活動があるから。みよしグリーンサポート隊をご存知でしたか。